

# 気候変動問題を どうコミュニケーションするか

東京大学未来ビジョン研究センター教授

国立環境研究所上級主席研究員

江守 正多



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO



# 江守 正多

東京大学 未来ビジョン研究センター 教授  
(総合文化研究科 客員教授)

国立環境研究所 地球システム領域 上級主席研究員  
(社会対話・協働推進室長)

- 元々の専門は気候変動のシミュレーション
- 温暖化ブームで科学解説、懐疑論論争、IPCC
- 温暖化政策論争で環境派 vs 経済派を観察
- 科学の政治的「中立性」、政策判断の価値依存などに興味を持つ





## ミッション・ステートメント

私たちは、環境をまもり持続可能な社会をつくるために、  
対話・協働に取り組みます。

- ◆社会の多様な視点や意見を尊重し、社会からの声に学ぶとともに、社会と一緒に環境問題に向き合います。
- ◆対話・協働の輪を広げ、それらを通じて得られる経験や喜びを共有し、活動を支援します。
- ◆国立環境研究所と社会との間に相互信頼関係が生まれることを目指します。



専任のコミュニケーター3名に加え  
各ユニットの研究者、広報担当などが  
兼任スタッフとして参加

## 対話オフィスの立ち位置

一方向ではなく**双方向**のコミュニケーション。

➡ **社会の関心や文脈**を知る。

背景に「**科学だけでは解けない問題**」

・・・不確実、価値依存、専門家バイアス

専門家が「教えてあげる」という姿勢で一方向的に情報発信するのではなく、社会の様々な主体が持つ異なる視点、認識、知恵、価値観等を尊重したうえで、「**相互に学び合う**」姿勢で社会と向き合う。

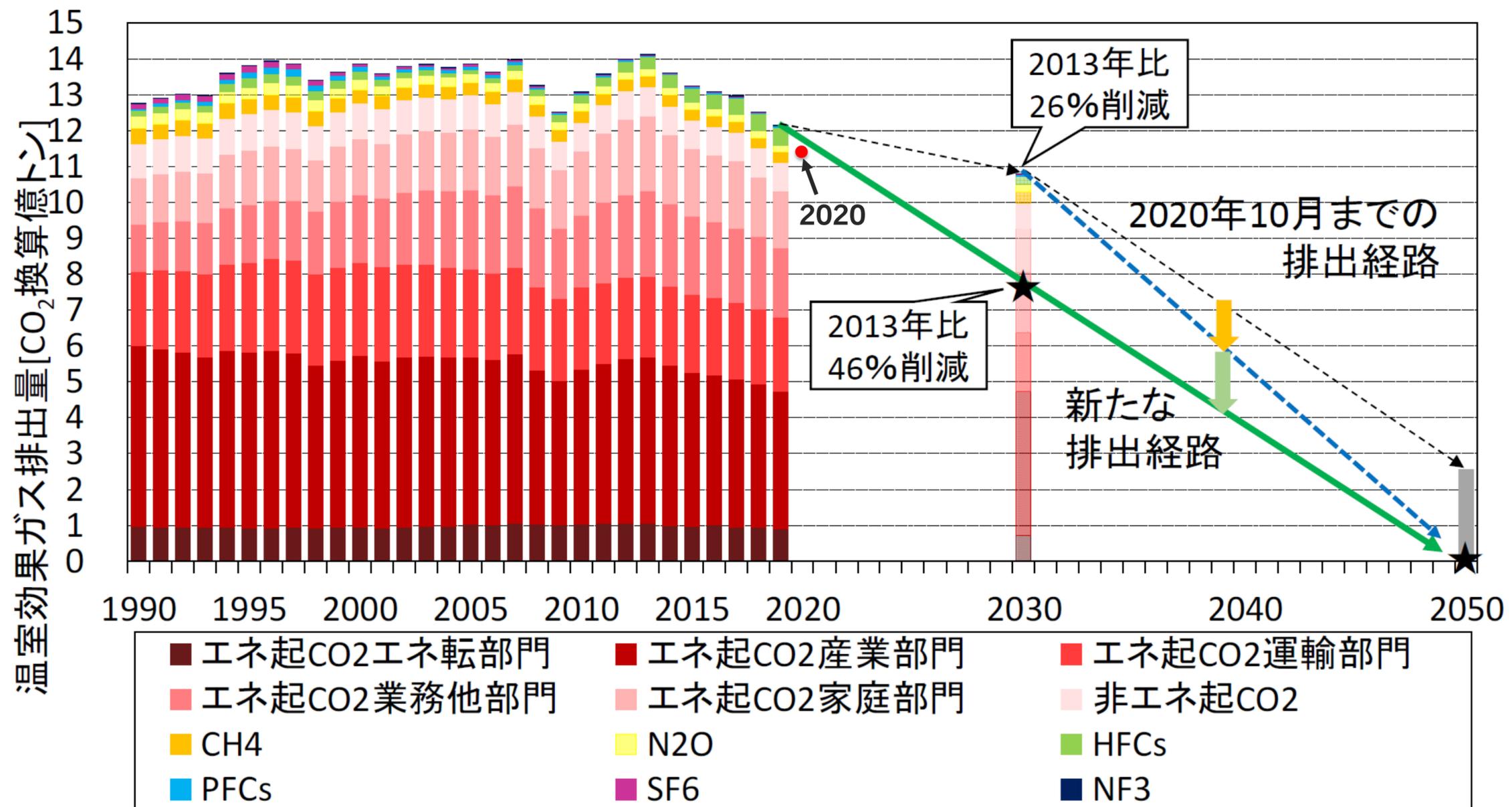
# 日本の排出削減目標

従来目標：2050年80%減、2030年26%減(2013年比)



2020年10月：2050年脱炭素化

2021年 4月：2030年46%減(2013年比)



## なぜか

- 気候変動について知らないせい？
- 自分勝手なせい？

## じゃあ、どうするか

- 気候変動について知ってもらう？
- 自分にも影響があることを知ってもらおう？

## どうなったらいいの？

- みんなが関心を持ってエコな生活を送る？

## なぜか

- 「**負担意識**」があるせいでは？  
(関心がある人にもあるのでは？)



## じゃあ、どうするか

- 「**負担意識**」を変えていこう！  
(脱炭素は前向きな社会のアップデート)

## どうなったらいいのか

- 「**本質的な関心を持つ人**」を増やしてシステム  
の変化を起こそう！

Q. あなたにとって、気候変動対策は  
どのようなものですか？



a. 多くの場合、生活の質を脅かすものである

26.75%

世界平均

60%

日本

(中国 14%, ドイツ 24%, ロシア 23%, 米国 25%)

b. 多くの場合、生活の質を高めるものである

66.24%

世界平均

17%

日本

(中国 65%, ドイツ 63%, ロシア 58%, 米国 67%)

世界市民会議 (World Wide Views on Climate and Energy)  
2015年6月実施

Q. 気候変動の影響を自分自身が受けると強く思う？  
(2015→2021の変化)

Q. 気候変動対策のために生活を変えてもよい？

Q. 国際的な気候変動対策は自国の経済に有益？

**Intense concern about the personal effects of climate change has increased sharply in several major economies since 2015**

% who are **very concerned** that global climate change will harm them personally at some point in their lifetime

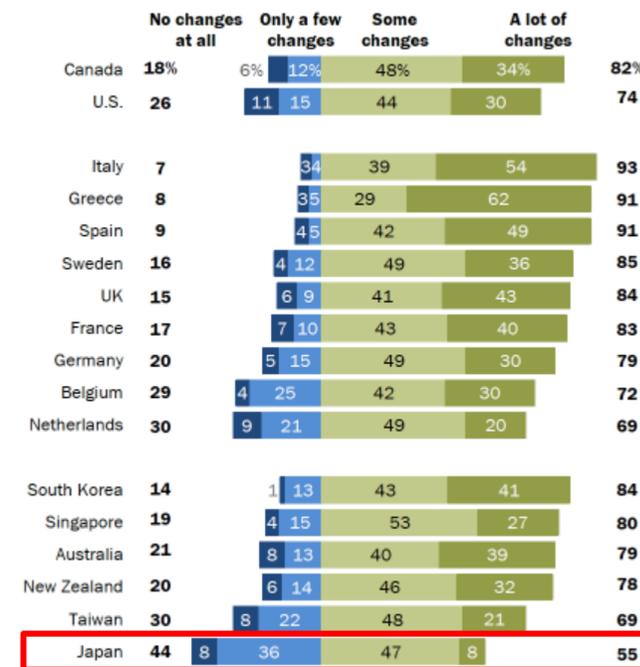


Note: All differences shown are statistically significant.  
Source: Spring 2021 Global Attitudes Survey, Q31.  
"In Response to Climate Change, Citizens in Advanced Economies Are Willing To Alter How They Live and Work"  
PEW RESEARCH CENTER

日本は減少

**Most people in publics surveyed are willing to make at least some changes to their lives to help reduce the effects of climate change**

% who would be willing to make \_\_\_ about how they live and work to help reduce the effects of global climate change

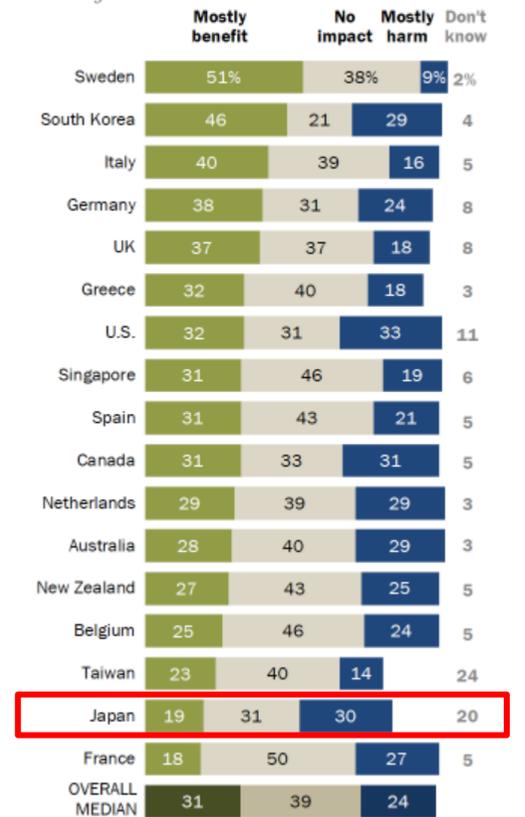


Note: Those who did not answer not shown.  
Source: Spring 2021 Global Attitudes Survey, Q32.  
"In Response to Climate Change, Citizens in Advanced Economies Are Willing To Alter How They Live and Work"  
PEW RESEARCH CENTER

日本は最下位  
(調査対象国中)

**Publics are divided over the economic impact of international actions to address global climate change**

% who think actions taken by the international community to address global climate change, such as the Paris climate agreement, will \_\_\_ (survey public's) economy



Source: Spring 2021 Global Attitudes Survey, Q34.  
"In Response to Climate Change, Citizens in Advanced Economies Are Willing To Alter How They Live and Work"  
PEW RESEARCH CENTER

日本は下から2位  
(調査対象国中)

Pew Research Center (2021)

<https://www.pewresearch.org/global/2021/09/14/in-response-to-climate-change-citizens-in-advanced-economies-are-willing-to-alter-how-they-live-and-work>

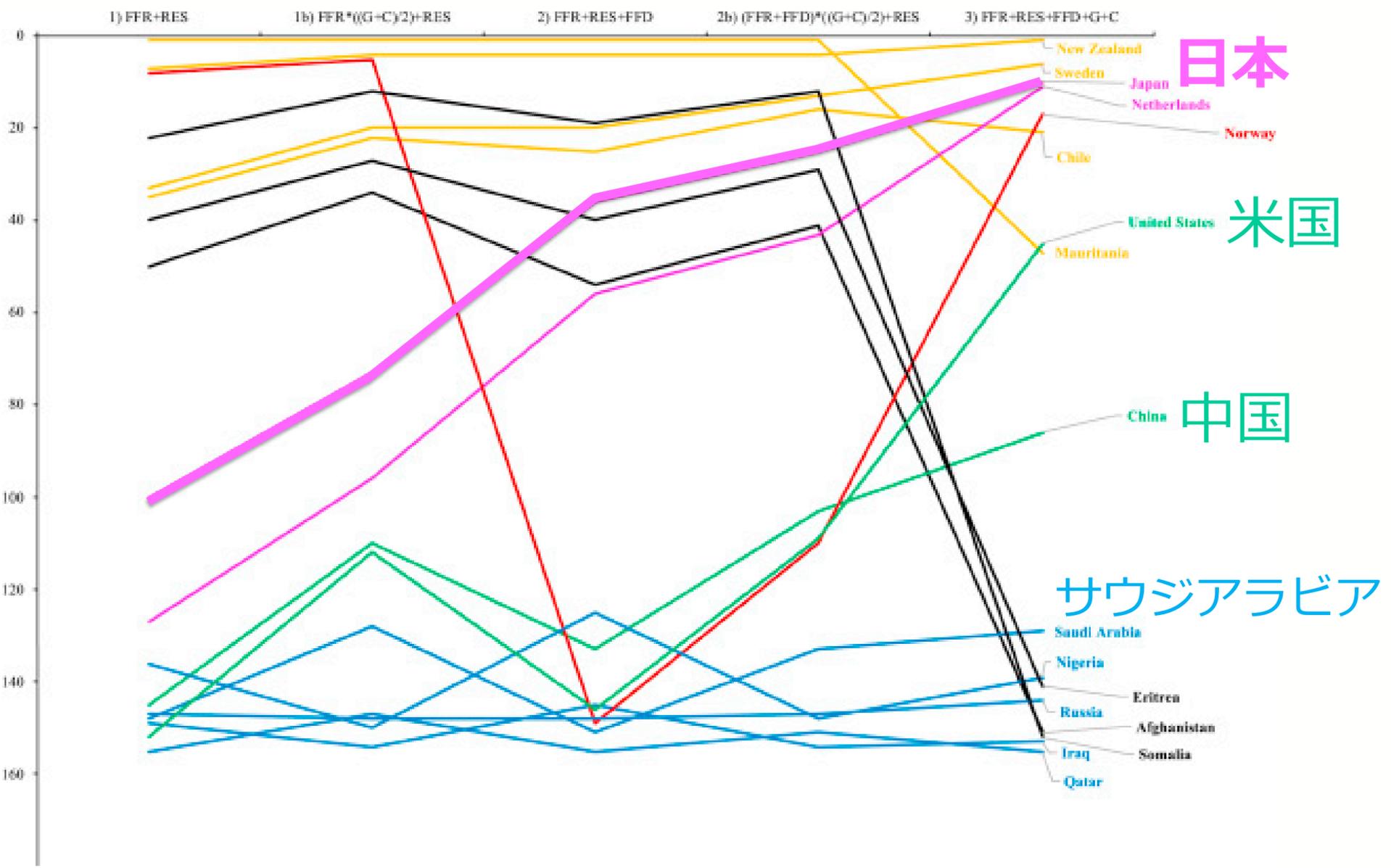
# 脱炭素化の地政学的な得失

## 世界が脱炭素化した暁には日本は「勝者」

←資源量のみ考慮      ガバナンスも考慮→

脱炭素化の地政学的得失指標

「勝者」 ↑  
↓ 「敗者」



Overland *et al.* (2019) The GeGaLo index: Geopolitical gains and losses after energy transition, *Energy Strategy Reviews*

# Gretaさんはなぜ飛行機に乗らないか？



*We need **a system change** rather than individual change.  
But you can not have one without the other.*



*I'm not traveling like this because I want everyone to do so,  
I'm doing this to **send a message** that it is impossible to live  
sustainably today & that needs to change."*

あなたの行動が、あなたの出すCO<sub>2</sub>を減らすだけでなく、  
**システムを変える**メッセージになるように行動せよ！

# The '3.5% rule'



国民の3.5%以上が参加する非暴力の抗議運動が起きれば、  
(ほぼ) 必ず変化がもたらされてきた。

(Chenoweth, E. 2020: Questions, answers, and some cautionary updates regarding the 3.5% rule. Carr Center Discussion Paper Series)

## なぜか

- 「**負担意識**」があるせいでは？  
(関心がある人にもあるのでは？)



## じゃあ、どうするか

- 「**負担意識**」を変えていこう！  
(脱炭素は前向きな社会のアップデート)

## どうなったらいいのか

- 「**本質的な関心を持つ人**」を増やしてシステム  
の変化を起こそう！

「脱炭素化」はしぶしぶ努力して  
達成できる目標ではない



社会の「大転換」が必要がある

「大転換」 (transformation)

⇒単なる制度や技術の導入ではなく、人々の世界観の  
変化を伴う過程。

例：産業革命、奴隷制廃止

# 「大転換」の事例としての「分煙革命」



~30年前

- 受動喫煙による健康被害の立証
- 「嫌煙権」訴訟
- 健康増進法（受動喫煙の防止が努力義務→後に義務化）
- 分煙・禁煙飲食店の主流化

常識の変化！



今

# 人類は「化石燃料文明」を 今世紀中に卒業しようとしている

- 少し前までは、化石燃料が枯渇する心配をしていた。
- 最近では、「たくさん余っているのに使うのをやめる」ことを目指し始めた（そうしないとパリ協定の目標を達成できない）。

「石器時代が終わったのは、  
石が無くなったからではない」

Sheikh Ahmed Zaki Yamani (元サウジアラビア石油相)

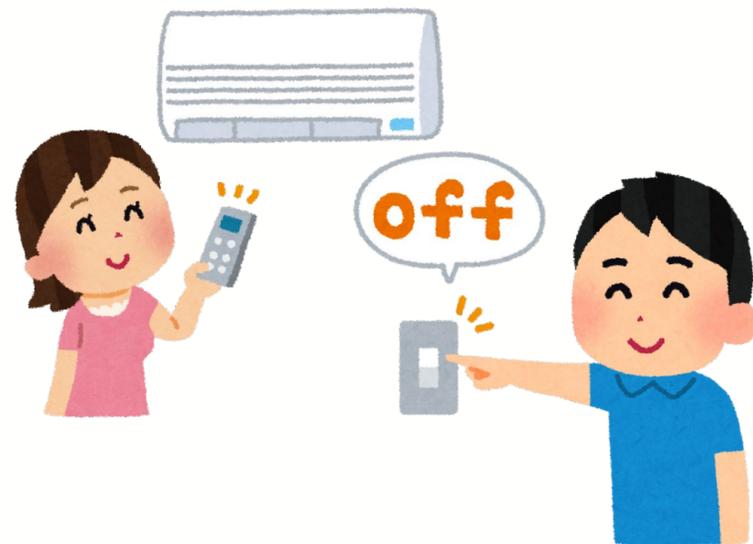
「わたしたちにできること」

危機の「出口」

## コロナ危機の場合



## 気候危機の場合



# さらに大きな「出口」？

気候危機とコロナ危機に共通する背景：

- 人間が生態系に踏み入っている。
- グローバル経済による大量生産・大量消費。
- 社会的な格差の拡大。
- 国どうしの協力が不十分。

⇒これらの問題の「出口」が問われている。

出口

EXIT